

令和 8 年 度 施 政 方 針

令和 8 年 3 月 3 日

美祢市長 篠田 洋司

施政方針

(はじめに)

令和 8 年第 1 回美祢市議会定例会の開会に当たり、議案の説明に先立ち、私の施政方針を申し上げ、議員各位並びに市民の皆様の深い御理解と御協力を賜りたいと存じます。

(令和 7 年度の振り返り)

令和 7 年度を振り返りますと、本市にとりましては、「第二次美祢市総合計画後期基本計画」が始動し、新たな一步を踏み出す重要な一年でありました。

昨年 9 月に開催された、ユネスコ世界ジオパークカウンシル会議において、Mine 秋吉台ジオパークのユネスコ世界ジオパーク承認勧告の決定がなされるという喜ばしい出来事があった一方で、J R 美祢線につきましては、

B R T、バス高速輸送システムを基軸とした復旧を目指すという、苦渋の決断を余儀なくされました。

また、冒頭、御報告申し上げたとおり、先月実施いたしました秋吉台山焼き事業において、消防団員 1 名が亡くなられるという大変痛ましい事故が発生いたしました。市民の尊い命が失われたことは、痛恨の極みであります。この事故に関しましては、原因等の究明とともに、現行のマニュアルで十分に安全が確保できるのか、有識者の知見を踏まえ、早急に検証を進めてまいる所存であります。

私は、市長就任以来、常に「市民に寄り添う」という姿勢を基本とし、市政運営に取り組んでまいりました。市民の皆様との対話を大切にし、その声を真摯に受け止め、誰もが「住んで良かった」と思える美祢市を築いていくため、引き続き、誠心誠意、努めてまいる所存であります。

（現状と背景）

さて、我が国全体の現状を見ますと、依然として人口減少、少子高齢化の進展が続いており、本市におきましても、その傾向は極めて顕著であることから、地域社会の維持に向けた取組が、最重要課題であると認識しております。

また、市の貯金である財政調整基金を取り崩し、不足する財源に対処した予算編成が継続しております。物価高の長期化に加え、社会保障関係費や老朽化したインフラ・公共施設の維持費の増大、利率上昇による利子償還額の増加も見込まれることから、本市の財政状況は、一層厳しさを増しているのが現状であります。

これらの課題は、一朝一夕に解決できるものではなく、複合的かつ構造的な難題ではありますが、この難局に取り組むことこそが、本市を次のステップへ飛躍させる好機でもあると考えております。

このような中、高市内閣が掲げる「責任ある積極財政」

の方針を追い風と捉え、国と緊密に連携した物価高対策や賃上げ環境の整備、さらには、将来の危機に耐えうる強靱な地域インフラの構築を、強力に推し進めてまいる所存であります。

（市政運営の方針）

令和8年度当初予算編成に当たっては、総合計画に掲げる「若者・女性・地域がかがやき こどもの笑い声が響く『誇れる郷土・秋吉台のまち』」を実現するため、将来にわたる「持続可能なまちづくり」に向け、健全財政を維持する「歳入の確保」と「歳出の適正化」を徹底し、個別最適化ではなく、全体最適化の観点から、より一層の事業効果が発揮できるよう取り組んだところであります。

市民のニーズをベースとし、地域課題解決に向けた取組を進め、最も身近な地域への経済効果の波及を図る重点事業を明確にして推進するとともに、継続的に地域づ

くりに関わりを持つ関係人口を増やし、地域社会全体で長期的に持続可能な活動を実現できるよう、財源確保に十分配慮したものであります。

それでは、新年度に実施する主要な事業・施策について、本市の最上位計画である「第二次美祢市総合計画後期基本計画」の基本目標に沿って御説明いたします。

1 「魅力創出・交流の拡大」について

まず、基本目標1の「魅力の創出・交流」の拡大であります。

秋吉台や秋芳洞、別府弁天池などの本市の強みである観光資源は、単なる観光地としてだけでなく、地域経済を支え、次世代に引き継ぐべき、国際的価値がある地質地形遺産であります。

Mine 秋吉台ジオパークを軸とした「保全と活用の循環型まちづくりプロジェクト」を横断的に取り組むとともに

に、訪れて学び、楽しみ、地域と関わる交流の構築を進めてまいります。

具体的には、体験型アクティビティの開発・拡充、カルスト展望台の改修、観光プロモーションの強化、イベント・民泊助成を継続しつつ、Mine 秋吉台ジオパークセンター「カルスター」の改修を完了させ、特産品を活用した軽食・オリジナル商品の提供を本格化いたします。Mine 秋吉台ジオパーク活動を更に推進していくため、推進協議会の支援、ビジビリティ強化、グローバル人材の育成、県補助金をも活用した国際会議経費、誘導看板の機能強化など、秋吉台エリア誘客促進と Mine 秋吉台ジオパークの保全と活用の循環をサステイナブルな魅力として広く発信する取組を展開します。これにより、観光客の滞在時間を延ばし、地域経済への貢献度を高め、持続可能な取組を進めてまいります。

2 「産業の振興」について

次に、基本目標 2 の強みを活かした「産業の振興」であります。

人口減少と高齢化が進行する中であっても、地域が自ら稼ぐ力を高め、若者や女性が活躍できる場を創り出すことが、地方創生の要であります。

本市には、豊かな地質・観光資源、農林水産資源、交通結節点としての地理的優位性など、他にはないポテンシャルがあります。これらの強みを最大限に活かし、第一次産業から第六次産業までを通じた付加価値の創出に取り組んでまいります。

「厚保くり YAMAMORI プロジェクト事業」を拡充し、栗の安定供給と品質向上に向けた栽培支援、スマート農業技術の導入などを進めることで、農業者の所得向上と担い手の確保に繋げてまいります。

また、「単独県費土地改良調査事業」により、ほ場整備

地域の拡大・再編に向けた基礎調査を行い、持続可能で競争力のある農業生産基盤の構築を図ります。

資材費、燃料費の高騰などで厳しい経営状況にある畜産農家に対して、家畜共済費を助成する事業を引き続き実施してまいります。

有害鳥獣対策では、新たに「指定管理鳥獣対策事業」を立ち上げ、特に熊による被害防止対策を強化いたします。捕獲体制の整備や住民への情報提供・啓発、被害防止柵の整備支援など、地域の安全と農林業の被害軽減を両立させる対策を進めてまいります。

商工業分野では、ＪＲ西日本が実施する山口デスティネーションキャンペーンと連携し、事業者が企画した特産品等の販路開拓や、美祢駅周辺において、地域の事業者や住民が創り出すイベントを行う「産業・地域関係強化促進事業」を新規に実施し、地域と連携したイベント等を通じて地域経済の活性化を図ってまいります。

また、道の駅おふくのレストランを改修し、「食」の機能強化を図ります。

これらにより、観光や地場産業と結びついたマーケットの創出やプロモーション支援を行い、市内事業者の販路拡大とブランド力向上を後押ししてまいります。

人材確保の面では、「奨学金返還支援事業」を新たに創設し、大学等在学中から、本市での就職を希望する若者に対する支援を行うことで、市内企業の人材確保、将来の市内就職と定着を促進いたします。

企業誘致の推進については、雇用奨励金の支給を拡充し、地域に新たな雇用機会を生み出す企業の進出や市内企業の投資拡大を積極的に支援してまいります。

既存の加工・販売・サービスに新たな価値を生み出す事業者への支援については、六次産業化やデジタル活用を視野に入れながら、きめ細かな伴走支援を行い、地域内経済循環の拡大と持続可能な経営を後押ししてまいります。

3 「ひとの育成」について

次に、基本目標3の市の宝となる「ひとの育成」であります。

少子高齢化と人口減少が進む中であっても、本市の未来を切り拓くのは、何よりも「ひと」の力であります。子どもと子育て世代への支援や教育環境の充実、生涯学習やスポーツを通じた生きがいつくりなど、生涯を通じて学び、挑戦し続けられる環境を整えることは、将来世代への最大の投資であります。

「乳児等通園支援事業」を新たに実施し、通園していない6か月から満3歳未満の児童を対象とした給付支援を行います。経済的負担の軽減とともに、子育て家庭へのきめ細かな伴走支援に繋げることで、「こどもまんなか社会」の実現に向けた取組を強化します。

教育分野では、「不登校児童生徒支援事業」として、専門アドバイザーの活用による伴走型支援体制を構築しま

す。子ども一人ひとりの状況に応じた柔軟な学びの場の確保や、保護者への相談支援などに取り組み、「誰一人取り残さない学び」の実現を目指してまいります。

教育の魅力化推進を図るため、各学校のビジョンに沿った授業の企画支援を拡充し、主体的・対話的で深い学びの実践や、地域・大学との連携による、ふるさと学習などを通じて、本市への誇りとチャレンジ精神を育ててまいります。

「教育交流事業」では、昨年度、市内5つの中学校が、台湾南投県の水里国民中学校と姉妹校を締結し、相互往来を行うこととしています。今年度は、台湾から中学生を迎え、対面型異文化交流を行います。

「地域文化活動体制整備事業」及び「地域スポーツクラブ活動体制整備事業」については、部活動の地域移行の「完全化」に向け、受け皿となる地域クラブの運営支援や指導者の確保・育成に取り組み、子どもたちが多様な文

化・スポーツに継続して触れられる環境を整備してまいります。

学校給食については、小学校給食の無償化を実施するとともに、中学校の給食費につきましても、食材価格高騰分を支援することで、子育て世帯の負担軽減と、栄養バランスのとれた食の提供を通じた子どもの成長支援を図ります。

学びの機会の拡充として、新たに「Mine いきいき学び塾開催事業」を立ち上げ、市民大学講座や文化人等による講演会を開催いたします。生涯学習の一環として、市民一人ひとりの知的好奇心を刺激し、地域全体の学びの力を高めてまいります。

また、公設塾 mineto や高校生版公設塾であるラーニングスペースの取組を継続し、キャリア教育や探究型学習を通じて、未来を切り拓く力と豊かな心を育んでまいります。

4 安全・安心な「まちづくり」について

次に、基本目標 4 の安全・安心な「まちづくり」であります。

気候変動の影響により、近年、局地的集中豪雨や大型台風等が頻発・激甚化しており、河川の氾濫や土砂災害のリスクが高まっています。また、高齢化の進展に伴い、医療・福祉・介護の需要も増大することが見込まれており、誰もが安心して暮らせる「地域共生社会」の実現が早急に取り組むべき課題となっております。

新たに洪水ハザードマップの作成に着手し、最新の浸水想定や避難情報を反映した分かりやすい情報提供を行うことで、市民一人ひとりの防災意識の向上と、実効性のある避難行動に繋げてまいります。

また、消防署に配備する高規格救急自動車の更新を行い、更なる救急体制の充実と救命率の向上など、市民の安全・安心の確保に努めてまいります。

福祉分野においては、計画期間が終了する障害者計画、障害福祉計画・障害児福祉計画の次期策定を実施し、障害のある人が地域で安心して暮らし、学び、働くことができる環境整備に向けた中長期的な方針を定めてまいります。

また、本年度から本格的に実施している「重層的支援体制整備事業」については、引き続き、複雑・複合化する生活課題に対し、相談支援・参加支援・地域づくり支援を一体的に提供できる体制を強化してまいります。

医療・健康・介護分野では、保健事業と介護予防の一体的な実施を進め、保健師の積極的な活用により、生活習慣病予防やフレイル予防など、切れ目のない健康づくりの取組を進めてまいります。

介護予防の一環として、補聴器の早期装用を促進し、コミュニケーションを維持することで、認知症、うつ病の発症リスクを低減することを目的に、「補聴器購入補助事業」を新設します。

また、緊急医療体制においては、救急受入病院への支援を拡充し、夜間や休日を含む体制の維持・強化に取り組めます。

予防接種においては、接種項目を拡充し、感染症予防の観点から、特に必要性の高いワクチンについて、公費負担の拡大を図ります。

「幼児健康診査事業」において、1歳6か月児健診、3歳児健診に加え、新たに5歳児健診を実施し、就学前の早期の支援に繋げていきます。

斎場管理においては、残骨灰の処理方法を見直し、環境負荷の低減と施設運営の合理化を進めます。

また、新たに「景観計画策定事業」に着手し、歴史・文化・自然環境と調和のとれた景観形成に向けたルールとビジョンを示してまいります。あわせて、移住に繋がる関係人口の創出・拡大の取組や、市内で住宅を取得した人への補助金の要件を見直し、単身者を含む若年層への支援

を拡充します。これにより、市外への転出を抑制するとともに、定住人口の拡大を図ります。

5 「自治体経営の強化」について

次に、基本目標5の「自治体経営」の強化であります。

人口減少と歳入の伸び悩みが続く中、従来の延長線上の行財政運営では、持続可能性を確保することが難しい状況になっております。限られた経営資源を最大限に活かしながら、市民サービスの質を維持・向上させるためには、デジタル技術の活用、民間との連携、組織・人材の再編など、自治体経営そのものを変革していくことが求められております。

「移動型スマホ教室開催事業」を新たに実施し、高齢者等を対象としたデジタルデバイド対策を進めます。身近な場所でスマートフォンの基本的な使い方やオンライン行政サービスの利用方法等を学べる機会を提供し、デジ

タル化の恩恵を誰もが享受できる社会を目指します。

また、「ふるさと美祢応援寄附金事業」については、個人版及び企業版ふるさと納税の促進に向けた取組を拡充し、特定目的基金を活用した将来への投資に繋がるプロジェクトへの重点投入を図ります。未利用資産については、売却・貸付け・複合利用など、収益性・公共性・持続可能性のバランスを踏まえた利活用を進め、財源の確保と地域のにぎわい創出を両立させてまいります。

行政改革については、D Xの活用や公民連携による業務効率化を一層推し進め、生成A Iの活用や外部委託、連携協定等を通じて、組織体制と業務プロセスの合理化・標準化を図ります。

協働のまちづくりの推進においては、集落支援員の活動を継続・強化し、地域の課題解決や活性化に向けた支援を行うことで、「行政だけではなく、市民とともに創るまちづくり」を具体化してまいります。

6 「未来につなげるまちづくり」について

最後に、これまでの各基本目標を横断し、将来を担う子どもたちが健やかに育つ環境づくりや、地域の財産となる人づくり、まちの賑わいや活力の創造など、人が活躍できる地域社会の実現を図り、将来に繋げる「未来につなげるまちづくり」に向けた取組について申し上げます。

人口減少対策として、美祢・美東・秋芳地域それぞれで、市民主体ワークショップを開催し、未来施策の立案・実施を行う「みらいそうぞうまちづくり事業」を市内全域に広げていきます。

都市・地域拠点の活性化を図り、各地域拠点の賑わいを創出する取組として、子育て機能や健康づくり機能を併せ持つ複合型図書館の実施設計に着手し、知・子育て・健康が交差する、新たな都市拠点の形成を進めます。

また、美東小学校と美東中学校の一体型施設整備を拡充し、小中一貫教育と地域連携教育の拠点として、魅力あ

る学校づくりを推進するとともに、大田保育園と真長田保育園の統合整備を行い、保育環境の充実と施設の効率的運営を図ります。

これにより、子育て世帯が、安心して子どもを預けられる環境づくりを一層進めてまいります。

さらに、まちづくり拠点の中核となる秋芳地域まちづくりセンターの駐車場整備を進め、利便性の向上を図ります。

中山間地域における交通・医療の課題を未来へ繋ぐ取組として、BRT、バス高速輸送システム導入を見据えた交通再編を進め、生活交通の確保と地域間連携を強化します。また、「地域医療・健康管理充実に向けたオンライン診療体制整備事業」を立ち上げ、提供病院の環境整備を支援することで、通院が困難な高齢者等も含めた受診機会の確保を図ります。

加えて、健康寿命の延伸に向けた行動変容を促し、日常

生活の中で、無理なく継続できる運動・食生活改善・社会参加の機会を広げる取組として、「元気っちゃ！みね健幸推進事業」を展開してまいります。

これらに加えて、Mine 秋吉台ジオパークを軸とした保全と活用の循環型まちづくりプロジェクトとして、ジオパークに関連した誘客促進事業や魅力伝播事業、秋吉台に連動する拠点整備を有機的に連携させることで、ユネスコ世界ジオパーク認定にふさわしい質の高い活動を展開してまいります。世界基準の「学び」と「観光」を兼ね備えたジオパークの実現を通して、本市の認知度向上と地域経済への波及効果を高めてまいります。

（むすび）

以上が、令和８年度に向けた私の施政運営の方針であります。

今後とも、積極的かつ明確な情報発信を心掛け、本市が目

指す方向性について、市民の皆様と共有し、持続可能なまちづくりを推進してまいります。

私が、皆様にお約束した「4つのいちばん」である、「安心・安全がいちばん」、「元気づくりがいちばん」、「次世代支援がいちばん」、「ひとつになれる市政がいちばん」の実現に向け、全力で取り組む覚悟であります。

議員各位並びに市民の皆様におかれましては、御理解、御協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。